

38 こんだいじ しょう 金台寺の鉦



指 定 市有形文化財 昭和46年10月1日
 所在地 野 沢
 所有者 金 台 寺



金台寺は時宗の開祖一遍上人ゆかりの寺院である。『絵本着色一遍上人絵伝巻第二』（国重要文化財）には、弘安2年（1279）上人が伴野荘へ巡錫（僧侶が各地を巡行して善に導くこと）して、踊り念仏を創始したときの状況を書いた中に、「同行ともに声をととのへて念仏し、ひさげをたたいてをどり給ひける。みるもの随喜し、聞く人渴仰して、金磬をみがき鑄させて、ひじりに奉りけり」とある。

瀬下敬忠著『千曲の真砂』（宝暦3年〈1753〉）にも、金台寺宝物のうち八丁鉦をあげており、井出道貞は『信濃奇勝録』（天保6年〈1835〉）で跡部の鉦鑄場（今の金山か）の旧跡をあげ、ここで時の城主が8個の金磬を鑄させて寄進し、代々伝えて什宝（家の宝物として秘蔵する器物）としたと記している。金台寺伝来の鉦鼓はこの一つと推考され、無銘であるが、延慶2年（1309）3月15日銘のある、同じく市有形文化財の竹田の鉦、および中野市中野小学校所蔵の延慶元年11月1日在銘の重要美術品の鉦鼓と、形態その他同一で、これらとともに信州におけるこの種の逸品である。

法量は上径19.7cm、底径22.2cm、高さ5.2cm、重量2.5kgである。